

行政職員向けゲートキーパー養成講座（愛知県北名古屋市）

【概要】

市民を支える立場にある行政職員がゲートキーパーになることで、悩んでいる人に気づき、声を掛け、話を聞いて必要な支援につなげたり、見守ることができるようにするための事業である。また、職員自身が心身ともに健康に働くためには、職場内でも、同僚や部下の心の変化に早く気づき、寄り添うことができるような環境づくりが必要である。そのために、職員が自殺予防に関する正しい知識を身につけたり、職員自身の心のセルフケアにつなげることを目的としている。

【大綱の分類】

- 4) 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
- 5) 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
- 6) 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする

【政策パッケージ分類】

基本 2-1) 自殺対策を支える人材の育成（さまざまな職種を対象とする研修）

【事業実施年度】 2020 年度事例（2013 年度～2016 年度、2018 年度～2020 年度）

【事業予算】 26,000 円

【利点】

- ▼職員が自殺予防に関する基本的な知識を学ぶことにより、市民や自分以外の職員の心の変化に気づくことにつながる。また、職員自身の心のセルフケアにつながる。
- ▼職員が、自殺対策への視点を持ちながら日々の業務に取り組むことができる。
- ▼職員同士で気軽に相談し合えるような職場環境づくりにつながる。

【実施に至るまで】**本事業を実施する背景**

- ①令和元年の北名古屋市の自殺死亡率は、13.93 と平成 30 年の自殺死亡率 8.17 より増加している。今後、新型コロナウイルス感染症による影響も懸念される。
- ②市民に対する自殺予防対策として、継続的に人材育成、普及啓発を支援するような環境づくりが必要である。
- ③市民に対する自殺予防対策には、職員自身が心身ともに健康であることが必要であり、そのための職場環境づくりも必要である。

計画を立てる上での工夫

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年行っているグループワークは中止した。個人ワークの時間をつくることで、受講者の理解を深めたり、受講者がメンタルヘルスを身近な問題として関心をもてるように工夫した。
- ②講師と連絡を取り合い、講座の実施方法等について相談を重ねた。
- ③職員全体を対象とすることで、メンタルヘルスやゲートキーパーの役割について、共通認識をもてるようにした。

事業の具体的な内容

- ▼講義は 120 分
 - ・臨床心理士による講義
- 「こころの健康づくり講座～みんなでゲートキーパーになろう～」120 分

- ・講義の中で「共感的な対応方法」についての個人ワークを実施 5分
- 個人ワーク：相手の性格や特徴から、どのような対応を心がけるか個々で考える（3事例）
- ・受講者が相談を受けて気になる人がいた場合、自殺予防対策事業担当課（健康課）に相談してもらうよう伝えた。
- ▼講座終了後にアンケートを実施
- ・講座終了後当日に、受講者全員にアンケートを実施。
- ▼事業評価を実施
- ・講座終了後のアンケート結果を踏まえて事業評価を行い、次年度事業の参考にする。

【成 果】

- ▼新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年行っているグループワークは実施できなかったが、心の不調を抱えている人についての理解や、ゲートキーパーの役割について学んでもらうことができた。
- ▼講座終了後のアンケート結果では、8割の受講者から「今後の業務に活用できる」という回答が得られた。また、研修の開催時期と内容の難易度については、受講者全員から「適切」という回答が得られた。

【補 足】

- ▼特になし

【課 題】

- ▼相談を受ける行政職員の精神面でのフォロー体制も必要である。
- ▼地域の見守り体制の構築や、市民の心のセルフケアにつながるように、行政職員だけでなく一般市民向けのゲートキーパー養成も必要である。

【事業種別】	人材育成事業、普及啓発事業
【準備期間】	約90日
【人 数】	2人
【人口規模】	86,197人（2021年3月1日現在）
【財政規模】	29,390,000千円
【自治体負担率】	1/2 地域自殺対策強化交付金（人材養成事業）
【事業対象】	行政職員
【支援対象】	行政職員、市民
【委託の有無】	無し
【実施主体・問合せ先】	北名古屋市市民健康部健康課 TEL：0568-23-4000 Mail:kenko@city.kitanagoya.lg.jp

【参考資料・文献】

1. 地域自殺実態プロファイル（2019）